

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520317

研究課題名(和文)ポストモダニズム以降の文化研究 文化翻訳の実践とベトナム系アメリカ文化

研究課題名(英文)Cultural Studies after Postmodernism: The Process of Cultural Translation and Vietnamese American Culture

研究代表者

麻生 享志 (ASO, Takashi)

早稲田大学・国際教養学術院・教授

研究者番号：80286434

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではベトナム系アメリカ文化を例に、ポストモダニズム以降の文化翻訳の実践を分析・検証した。その主たる対象は、若くしてアメリカに移住し教育を受けた1.5世代、及びアメリカで生まれ育った二世移民とした。

彼ら若い世代のつくりだす移民文化は、ベトナム系コミュニティの形成と発展に寄与してきただけでなく、アメリカの主流文化にも影響を与えてきた。いわゆるメルティングポットにおける同化のプロセスではなく、異なる二つの文化をつなぐハイブリッドな文化形成、すなわち文化翻訳のプロセスに寄与しているのが、今日のベトナム系アメリカ文化といえる。

研究成果の概要(英文)：In this research, I have been working on the process of cultural translation in Vietnamese American culture. My main targets have been the 1.5 and 2nd generations of Vietnamese Americans--the 1.5 generation means the immigrants born in Vietnam who moved at a young age to the U.S. where they were educated, while the 2nd generation refers to those born and educated in the U.S. The immigrant culture that these young generations have created has not only contributed to building and developing local Vietnamese American communities but also affecting and influencing the formation of mainstream American culture. I would argue that Vietnamese American culture is an example of hybrid culture, or the process of cultural translation, where people with different cultural backgrounds connect two or more distinct cultures, rather than that of a melting pot where new comers make every possible effort to get adjusted to another community and another culture.

研究分野：人文学

キーワード：アメリカ文学 ベトナム系 ポストモダニズム 文化翻訳 トランスカルチャー ハイブリッド文化

1. 研究開始当初の背景

20世紀後半の文化・文学研究の主たる方法論として、ポスト構造主義の影響を強く受けた理論研究があった。Jacques Derrida に啓発された脱構築批評をはじめ、新歴史主義、ポストコロニアリズム、フェミニズム批評、トランスレーション・スタディーズ等の理論が様々な研究に援用された。また、文化の多様性に焦点をあてた多文化主義研究や、文化の裾野を広げると同時に文化のディテールを詳細に分析するカルチュラル・スタディーズが一世を風靡した。

このように多様化する研究環境において、人種・民族的マイノリティーの存在が新しい地域文化を生み出すと同時に、主流文化のあり方にも大きな影響を与え、文化全体の変化・混成を促す状況が顕在化してきた。なかでも、ベトナム戦争を契機にアメリカへ移住した1.5世代以降の若いベトナム系アメリカ人が創り出す新しい文化は、主流文化とマイノリティー文化の関係性を変える力をもつものとして注目に値する。Trinh T. Minh-ha が文化の「ハイブリッド化」、あるいは「文化翻訳」と呼ぶ現象がこれに相当する。

この分野において活躍する作家・芸術家としては、本研究申請者が2009年に翻訳・出版した小説『モンキーブリッジ』(Monkey Bridge, 1997)の著者 Lan Cao を筆頭に、Viet Thanh Nguyen、Monique Truong、Linh Dinh、Dinh Q. Le、Viet Le、Bich Minh Nguyen、GB. Tran、Aimee Phan から枚挙に暇がない。

2. 研究の目的

昨今のアメリカにおける複合的な文化展開の状況、とりわけ近年目覚ましい活躍を見せるベトナム系アメリカ人作家・芸術家の存在を踏まえ、本研究ではベトナム系アメリカ文化を中心に文化翻訳という現代的な文化生成の過程を対象に研究を進めた。その目的は、ベトナム戦争をきっかけに脱域を余儀なくされたベトナム系移民の文化・政治的位置づけを分析すると同時に、彼らが創り出す新しい文化の多様性と複合性の要因を解き明かすことにあった。換言すれば、アメリカ文化におけるベトナム系文化の隆盛に焦点を当てることで、主流文化とマイノリティー文化の間に生じる相互間作用を理解し、グローバル化するアメリカ文化とそれに対峙する地域文化としてのベトナム系文化の関係を考察することが本研究の目的であった。

この目的に向けて、西海岸をはじめアメリカ各地に展開される新しいベトナム系コミュニティと、そうした移民社会を拠点に展開されるベトナム系文化を例に、主流文化とマイノリティー文化がぶつかり合う様相とその衝突から生じる新しいハイブリッドな文化の形態を分析した。それは文化翻

訳の過程を検証する作業であると同時に、アメリカ文化全体の発展的可能性を分析・考察する作業でもあった。移民の文化・歴史的「過去」がアメリカという「現在」のなかで再表現される過程を解き明かすことは、文化翻訳を通じて浮かび上がるアメリカの「未来」を読み取ることであった。

3. 研究の方法

これまで移民・マイノリティー文化の研究といえば、グローバル化する主流文化のもとで虐げられるマイノリティー文化という二項対立的な構図を前提に進められることが多く見られた。また、グローバル化、及びグローバル文化の研究においては、それが文化のアメリカ化を指すといった論調が目立った。こうした先行研究に対して、新しいベトナム系文化の生成が主流文化に変化を促す過程であることを検証すべく、本研究では文化翻訳的視点から移民文化の形成と発展が主流文化との相互間作用を生むという仮説を立て、研究を遂行した。

このように主流文化と移民文化の形成が相互に影響し合うという文化翻訳的視点では、主流文化とマイノリティー文化という従来に対立的な枠組みを再検証することが研究の出発点になる。つまり本研究では、主流文化とマイノリティー文化との関係において変化・発展を遂げるのはマイノリティー文化だけではなく、主流文化もまたマイノリティー文化との間に生じる相互間作用からその形を変え、新たな文化を生成する可能性をもつことを検証した。同時に主流文化、及びマイノリティー文化それぞれが、その変化・発展の過程のなかでこれまでとは異なる歴史認識を育み、展開していく可能性にも注目した。

上記のような方法で研究を実践するにあたり、本研究では1.5世代以降のベトナム系アメリカ人作家・芸術家の作品を分析の中心に据えた。また、新しい文化の生成・展開の地政学的背景として、リトルサイゴンと呼ばれるアメリカ各地に点在するベトナム系コミュニティの形成と発展、またそこに暮らすベトナム系移民の政治的・文化的言動等の分析・考察を併せて行った。加えてアメリカ以外の第三国、すなわちフランス、イギリス、オーストラリア等の国々に移民したベトナム系芸術家の存在や活動を意識しつつ研究を遂行した。

4. 研究成果

平成24年度はアメリカ・ベトナム系コミュニティの実地調査を実施した。とくにロサンゼルス近郊サンタアナで積極的な活動を展開する Vietnamese Amercian Arts & Letters Association (VAALA) の協力を得て、現地で活躍するベトナム系芸術家と面会する機会をもった。彼らのプレゼンテーション、ゼミ形式の討議等を通じて多くの

情報を得ることができた。同時に Viet Thanh Nguyen (University of Southern California)、Lan Doung (University of California, Riverside) らベトナム系の研究者との意見交換を行った。

これらの成果は、「GB・トラン『ヴェトナムアメリカ』における歴史の再構築とトランスコミュニティ」(日本アメリカ文学会東京支部)及び“Assimilation, Simulation, and ‘Assimilation’: Queer Passivity in the Work of Pipo Nguyen-Duy”(名古屋大学言語文化研究所主催国際シンポジウム)として研究発表した。「GB・トラン『ヴェトナムアメリカ』」においては、ベトナム系アメリカ移民2世 GB Tran によるグラフィックノベル *Vietnamerica* (2011) を題材に、移民コミュニティの形成を John Brown Childs が唱えるトランスコミュニティという概念から分析した。また“Assimilation, Simulation, and ‘Assimilation’”においては、1.5 世代写真芸術家 Pipo Nguyen-Duy の作品を通じ、Pipo が言う“assimilation”(“assimilation”「同化」と“simulation”「模倣」を組み合わせた造語)という概念から、ヨーロッパ系アメリカ文化とベトナム系文化における文化翻訳の可能性とその限界について論じた。

平成 25 年度は、ポストモダニズム理論における中心的課題のひとつ「記憶の再構築」を問題の核心に据え、ベトナム系文化を例に現代文化の組成、あるいは蘇生がどういった過程を経て行われうるのかを調査・分析した。その一部については名古屋大学言語文化研究所主催国際シンポジウムにおいて、Yunte Huang (University of California, Santa Barbara) がいう「太平洋横断的想像力」という概念を、ベトナム系をはじめとするアジア系作家の描く作品世界に援用しつつ検証した(“Communal, Transcommunal, Transpacific: Mapping Out Asian American Culture in the Early 21st Century”)。なお、シンポジウムには Huang 本人も参加し、基調講演“Chinese Whispers”を行った。

また、平成 24 年度からの研究継続の成果として、論文「トラウマを越えて—GB・トラン『ヴェトナムアメリカ』における歴史の再構築とトランスコミュニティ」(共編著『憑依する過去』金星堂 2014 年、333-46 頁)を出版した。本論では、ベトナム系第 2 世代 GB. Tran が描く移民家族、及び移民コミュニティが抱える課題や問題を、Childs が述べるトランスコミュニティという概念から分析した。

一方、ベトナム系アーティストが直面する人種・ジェンダーの問題を分析した“Gender and Race in Vietnamese American Culture: Queer Passivity in the Work of Pipo Nguyen-Duy”を、早稲田大学大学院国際コ

ミュニケーション研究科紀要 *Transcommunication* に掲載した(No. 1 (2014): pp. 105-11)。

平成 26 年度は、これまでの研究において中心的課題を占めてきた二つの概念「トランスコミュニティ」(Childs)と「記憶の再構築」を組み合わせることで、より多角的かつ発展的な研究を目指した。その結果、Aimee Phan や Bich Minh Nguyen ら若い世代のベトナム系作家を重点的に研究すると同時に、アジア系文学というより大きな枠組みのなかでベトナム系文学・文化の地政学的位置を問い直すことになった。その成果として、Phan と日系作家 Ruth Ozeki らを比較・分析した研究「異文化空間としてのトランスパシフィック」をアジア系アメリカ文学研究会にて発表した。

また、ベトナム系文化と 1970 年代初頭のアジア系アメリカ文化運動の接点を探る研究「大衆音楽から見るアジア系アメリカ運動とヴェトナム戦争」を日本アメリカ文学会東京支部にて発表した。ここでは大衆文化、とりわけ当時流行していたフォーク音楽やロック音楽が、アジア系文化の伝播や社会運動(ベトナム反戦運動を含む)に与えた影響を考察した。

加えて、ベトナム戦争時に大衆音楽が若者たちを通じてアジア系アメリカ文化運動に与えた影響について分析した研究“Pop Music and the Asian American Movement”を名古屋大学主催の国際シンポジウムにおいて発表した。また、本シンポジウムにおいては、Yu-Fang Cho (Miami University of Ohio) の基調講演“Reading Race and Gender in America’s Asia beyond Multiculturalism”において司会進行を務めた。

一方、ベトナム系アメリカ人小説家 Lan Cao が来日したことから、早稲田大学にて講演“Crossroads of Culture and International Law”を企画・運営し、司会進行を務めた(2014 年 12 月 16 日)。同時に Cao が 2014 年夏に発表した小説 *The Lotus and the Storm* の翻訳権を取得し、その翻訳に着手した。翻訳には概ね一年ほどを要し、また出版にはさらに数ヶ月を要する見込みであることから、当初 3 年計画であった本研究を一年間延長することとし、必要な手続きをとった。

平成 26 年度には、過去 3 年に渡る本研究の概要を総括すべく、第 49 回アメリカ学会年次大会において、南山大学藤本博先生を司会に部会「ベトナム戦争終結後 40 年—米越関係の現在」を企画した。当部会においては、本研究者が「1.5 世代から 2 世代へ」としてベトナム系アメリカ文化に関するこれまでの研究成果を発表したのに加え、大月短期大学の佐原彩子先生が移民学の視点

からアメリカ西海岸のベトナム系コミュニティについて、また学会外からはベトナム政治経済学をご専門とする静岡県立大学の五島文雄先生が中国の台頭を視野に入れた今日の米越関係について研究発表を行った。

一方、平成 26 年度に翻訳権を取得した Lan Cao の *The Lotus and the Storm* の翻訳が終了した。本報告書執筆中の平成 28 年 6 月現在、彩流社にて校正作業を進めている。『蓮と嵐』(仮題)として本年秋の出版予定である。

『蓮と嵐』はベトナム戦争をきっかけに渡米した父娘と、ベトナムに一人残った母をめぐる複雑な人間関係、そして南北ベトナムの政治的・軍事的緊張を描く小説である。戦時中と現在の異なる時空間を巧みに描き分けながら、Cao はベトナム戦争が単なる南北の政治・軍事対立でなかったことを、アメリカの東南アジアへの介入が単なる軍事侵略ではなかったことを伝える。戦争終結 40 年を経て今でも続くベトナム系移民の葛藤と人生を、本作の翻訳を通じて広く一般読者に伝えていくことを目的とする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

1) Takashi ASO, “Gender and Race in Vietnamese American Culture: Queer Passivity in the Work of Pipo Nguyen-Duy.” *Transcommunication* No. 1 (2014): pp. 105-11. 査読無

〔学会発表〕(計 7 件)

1) 麻生享志「1.5 世代から 2 世代へ-ベトナム系アメリカ文化の現在」部会 D『ベトナム戦争終結後 40 年-米越関係の現在』アメリカ学会第 49 回年次大会(2015 年 6 月 7 日 於・国際基督教大学)。

2) Takashi ASO, “Pop Music and the Asian American Movement: Chris Iijima, Yellow Pearl, and *The Grain of Sand*.” *American Literature and Culture at the Crossroads of Race and Gender* (A symposium organized by the Nagoya University American Literature/Culture Society and sponsored by the Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University). (2015 年 3 月 23 日 於・名古屋大学)。

3) 麻生享志「大衆音楽から見るアジア系アメリカ運動とベトナム戦争」日本アメリカ文学会東京支部(2015 年 1 月 24 日 於・慶應義塾大学)。

4) 麻生享志「異文化空間としてのトランス

パシフィック-ルース・オゼキ、エイミ・ファン、マイク・シノダ (The Transpacific as A Transcultural Space: Ruth Ozeki, Aimee Phan, Mike Shinoda)」アジア系アメリカ文学研究会(2014 年 7 月 12 日 於・早稲田大学)。

5) Takashi ASO, “Communal, Transcommunal, Transpacific: Mapping Out Asian American Culture in the Early 21st Century” *American Literature/Culture in a Global Context*. (A symposium organized by the Nagoya University American Literature/Culture Society and Sponsored by the Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University) (2014 年 3 月 5 日 於・名古屋大学)。

6) Takashi ASO, “Assimilation, Simulation, and ‘Assimilation’: Queer Passivity in the Work of Pipo Nguyen-Duy.” *Race and Ethnicity in American Literature and Culture: A Reconsideration* (A symposium organized by the Nagoya University American Literature/Culture Society and sponsored by the Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University). (2013 年 3 月 16 日 於・名古屋大学)。

7) 麻生享志「GB・トラン『ヴェトナムアメリカ』における歴史の再構築とトランスコミュニタリー」日本アメリカ文学会東京支部(2013 年 1 月 26 日 於・慶應義塾大学)。

〔図書〕(計 2 件)

1) 麻生享志・訳、ラン・カオ『蓮と嵐』(仮題)彩流社、2016(予定 496 頁・印刷中)。
2) 麻生享志「トラウマを越えて-GB・トラン『ヴェトナムアメリカ』における歴史の再構築とトランスコミュニタリー」小林富久子監修『憑依する過去』(金星堂、2014 年) pp. 333-46. 査読有

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
麻生 享志 (ASO Takashi)
早稲田大学・国際学術院・教授
研究者番号：80286434

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：